

平成28年度地域福祉活動計画の進捗管理及び事業評価、 並びに第3次地域福祉活動計画の総合評価について

1 計画の進捗管理及び事業評価、総合評価

本会では、平成25年度～平成29年度までの5年間、地域福祉を計画的に推進するための指針として、平成25年3月に「第3次茂原市地域福祉活動計画」（以下、「第3次活動計画」という。）を策定した。この計画は、「みんなで支える安全・安心の暮らしづくり」を基本理念とし、3つの基本目標、9つの基本方針、具体的な施策（50項目）及び体制整備（14項目）で構成している。計画の進捗管理（64項目）及び社協事業の適正な評価を行うため、平成25年度以降新たに実施した事業（3項目）、その他細分化し事業評価の対象とした事業（4項目）を追加し、平成28年度に実施した事業として、71項目の事業評価を行い、次年度以降の事業方針を審議した。

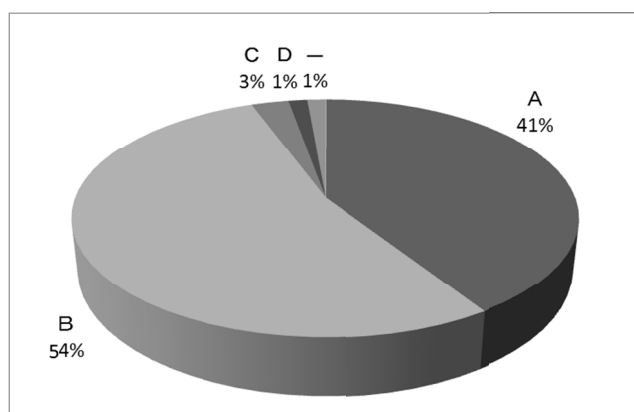
また、平成29年度は第3次活動計画の最終年度にあたるため、平成25年～平成28年度までの実施状況などを総合的に評価し、第4次茂原市地域福祉活動計画（以下、「第4次活動計画」という。）の策定方針についても審議を行った。

2 評価体制

- | | |
|-------|--|
| ①1次評価 | 担当者が事業評価シートを作成し、各所属単位で進捗管理・事業評価、総合評価を実施（7月） |
| ②2次評価 | 内部評価検討委員会において、進捗管理・事業評価、総合評価を実施（8月） |
| ③3次評価 | 事業評価検討委員会において、進捗管理・事業評価、総合評価を実施（9月） |
| ④最終報告 | 事業評価の結果を理事会に報告し、次年度以降の事業方針並びに第4次活動計画の策定方針を決定（9月下旬） |

3 評価結果

【平成28年度地域福祉計画の進捗状況】



- A 計画どおり実施済み
B 計画の50～100%未満の実施
C 計画の1～50%未満の実施
D 未実施
- その他（事業評価除外項目）

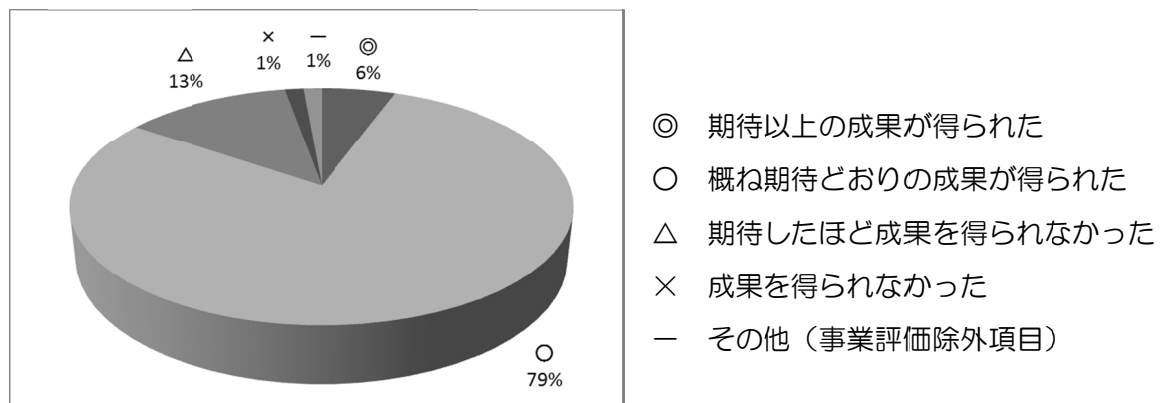
平成28年度地域福祉活動計画（64項目）及び事業評価の対象として追加した事業（7項目）の進捗状況は、計画どおり実施（A評価）が41%、50%以上100%未満の実施（B評価）が54%で、概ね計画どおり事業を実施（A+B評価）したのは合計で95%、50%未満の実施（C評価）は3%、未実施（D評価）は1%の結果となっている。

50%未満の実施は、地域福祉フォーラムの支援、災害ボランティアの登録となっており、今後は事業の見直しや改善を検討していく。

未実施は、福祉こどもまつりの開催となっており、総合市民センターの耐震工事により、平成28年度は福祉こどもまつりの開催を中止したため、未実施となっている。

本計画を、より実効性の高い計画とするため、引き続き、本計画の進捗状況を管理するとともに、新たに追加した事業についても、同様に進捗状況を管理・把握し、事業を推進していく。

【平成28年度に実施した事業に対する評価】



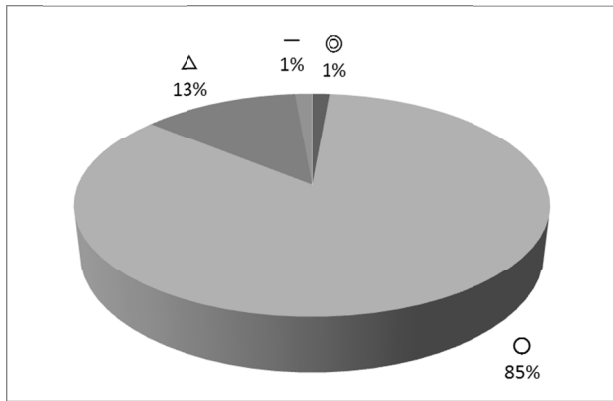
平成28年度に実施した事業に対する評価は、期待以上の成果が得られた（◎評価）が6%、概ね期待どおりの成果が得られた（○評価）が79%、概ね成果を得られた（◎+○評価）は合計で85%、期待したほど成果を得られなかった（△評価）は13%、成果を得られなかった（×評価）は1%の結果となっている。

期待したほど成果を得られなかった主な要因は、PR活動や普及活動が不十分で、社協活動や地区社協活動に対する地域住民の理解が不十分だったこと、福祉ニーズの把握や地域の課題把握が不十分で、ボランティアの養成、ボランティア活動メニューの開発・整備、地域福祉フォーラムの支援が不十分だったこと、職員の資質向上や会員増強の活動が不十分だったことなどがあげられる。

また、成果を得られなかったのは、福祉こどもまつりの開催となっており、進捗状況同様、総合市民センターの耐震工事により、平成28年度は開催を中止した結果となっている。

提供する福祉サービスの質や成果を高め、効果的な事業を展開するため、引き続き、事業の適正な評価を行うとともに、経営の安定化や財源を確保するため、今後も事業の見直しや経営の改善を図っていく。

【第3次地域福祉活動計画に対する総合評価】



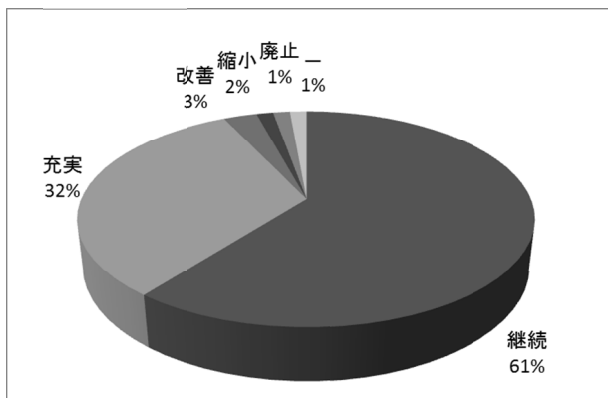
- ◎ 期待以上の成果が得られた
- 概ね期待どおりの成果が得られた
- △ 期待したほど成果を得られなかった
- ×
- その他（事業評価除外項目）

第3次活動計画に対する総合評価は、期待以上の成果が得られた（◎評価）が1%、概ね期待どおりの成果が得られた（○評価）が85%、概ね成果を得られた（◎+○評価）が86%、期待したほど成果を得られなかった（△評価）は13%の結果となっている。

期待したほど成果を得られなかった主な要因は、PR活動や普及活動が不十分で、社協活動や地域の助け合い活動、災害ボランティアの登録に対する地域住民の理解が不十分だったこと、福祉ニーズの把握や地域の課題把握が不十分で、地域福祉を実践する人材の育成、地域福祉フォーラムの支援が不十分だったこと、会費などの自主財源の確保や事業収益の確保が不十分だったことなどがあげられる。

第3次活動計画においては、計画の進捗管理や事業評価を行うための組織として、内部評価検討員会、事業評価検討委員会を組織し、社協で行うすべての事業を管理・評価し、事業を精査・改善する仕組みを構築した。第4次活動計画においても、計画の進捗管理、計画の見直し、事業内容や実施方法などの改善を図るため、事業評価検討委員会などを積極的に活用し、今後も計画的に地域福祉を推進していく必要がある。

【第4次地域福祉活動計画に対する方針】



- 継続 現行どおり、事業を継続する
- 充実 事業の充実、強化を図る
- 改善 事業の見直し、改善を図る
- 縮小 事業規模を縮小する
- 廃止 事業を廃止する
- その他（事業評価除外項目）

第4次活動計画に対する方針としては、事業を継続する（継続）が61%、事業の充実強化（充実）が32%、合計で93%の事業については、継続又は事業を充実し、継続する方針となっている。

その反面、事業の見直し（改善）が3%、事業を縮小（縮小）が2%、事業を廃止（廃止）が1%、合計で6%の事業については、改善又は事業を縮小、廃止する方針となっている。

事業の改善は、総合評価やアンケート結果から、PR活動や普及活動の強化が課題となっている。地域の助け合いやボランティア活動を活性化するためにも、今後は社協活動に対する地域住民の理解を深める活動を強化していく必要がある。また、社協がサービスを提供する上で必要となる自主財源を確保するためにも、PR活動を強化し、会員の拡充を図っていく必要がある。

事業の縮小並びに廃止については、福祉・介護人材の育成に関する研修会の実施、地域福祉フォーラムの設置・支援となっている。これらについては、それぞれ県などの補助金を活用し行った事業であるため、補助金の見直し・終了などにともない、事業を見直すこととした。

第4次活動計画の策定においては、第3次活動計画の総合評価、アンケート結果に基づき、効果的な事業展開が図れるよう、市の計画と一体となって計画を策定し、地域福祉を推進していく。

4 総合評価

第3次活動計画においては、計画の進捗管理や事業評価を行うための専門委員会を設置し、社協で行うすべての事業を管理・評価し、事業を精査・改善する仕組みを構築した。茂原市社協は、急速な事業規模の拡大、長年、自主財源が減少しているにもかかわらず、事業の見直しを行っていなかったため、積立金を取り崩さなければ、事業を継続できない状況となっていた。そのため、事業に対する目的やニーズ、効果などを最大限考慮し、すべての事業を精査した上で、翌年度の事業方針を決定するよう変更した。社協の限られた人員・予算で、効果的な事業展開が図れるよう、事業の改善・見直し・縮小・廃止を行い、事業に必要な人員や財源を確保した。また、介護サービスや障害福祉サービスの経営改善を行い、事業収益の一部を社会福祉事業の財源に充てることができた。

その反面、第3次活動計画の総合評価やアンケート結果から、PR活動や普及活動が不十分だったため、地域住民の理解や協力を得ることが難しく、社協会員の拡充、地域の助け合い活動やボランティア活動の活性化、災害ボランティアの登録・普及活動が不十分だった。

第4次活動計画の策定においては、第3次活動計画の反省やアンケート結果などを踏まえ、市と一体となって地域福祉に関する計画を策定するとともに、「誰もが住み慣れた地域で、安心して生活できるよう」地域社会を構成するすべての人や組織と連携・協働し、福祉のまちづくりを目指していく。

地域福祉活動計画進捗管理・事業評価総括一覧

| 基本目標 | 基本方針 | 施策の展開 | 事業名及び項目 | 担当課 | 3次計画 (H28) | 進捗状況 | H28評価 | H27評価 | H26評価 | H25評価 | 総合評価 | 4次計画 | 補足説明 | | | |
|---|----------------|-------------|-------------------|----------------------------------|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|--------------------|------------------|------|----------|
| 基本目標Ⅰ そばに いる く 安心感のある地域づくり | 1. 相談体制の充実 | ①身近な相談機能の充実 | 心配ごと相談・無料法律相談の充実 | 地域福祉課 | 充 実 | B | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | 充 実 | | | | |
| | | | ボランティア相談の充実 | 地域福祉課 | 充 実 | A | ○ | ○ | △ | △ | ○ | 継 続 | | | | |
| | | | 子育てに対する相談機能の強化 | 施設課 | 強 化 | A | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 継 続 | | | |
| | | | 総合相談機能の確立 | 地域福祉課 | 確 立 | B | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | 継 続 | | | |
| | 2. 情報機能の充実 | ①福祉情報の発信 | 広報紙「社福もばら」の充実 | 総務課 | 充 実 | A | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 充 実 | | | |
| | | | ホームページの充実(SNS含む) | 総務課 | 充 実 | B | ○ | ○ | △ | △ | ○ | ○ | 充 実 | | | |
| | | | PR活動の強化 | 総務課 | 強 化 | B | △ | △ | △ | △ | △ | △ | 改 善 | 前年改善項目 PR活動強化 | | |
| | | | 声の広報活動 | 地域福祉課 | 継 続 | A | ◎ | ○ | ○ | — | ○ | ○ | 継 続 | H25評価除外 | | |
| 基本目標Ⅱ いつも その 人ら しく く 支え 続け る 地 域 づ くり | 1. 地域福祉の理解を深める | ①福祉意識と理解の促進 | 社会福祉大会の開催 | 総務課 | 充 実 | A | ○ | △ | △ | △ | ○ | 改 善 | 前年改善項目 顕彰範囲の見直し | | | |
| | | | 福祉こどもまつりの開催 | 地域福祉課 | 充 実 | D | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 継 続 | 前年改善項目 | | |
| | | | 福祉教育・福祉学習への支援 | 地域福祉課 | 充 実 | A | ○ | △ | △ | ○ | ○ | ○ | 充 実 | 前年改善項目 | | |
| | | | 福祉野球教室 | 地域福祉課 | — | B | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 継 続 | 追加項目 | |
| | | | 福祉・介護人材の育成 | 総務課 | 育 成 | B | △ | ○ | ○ | △ | △ | △ | 縮 小 | 必要に応じて 実施 | | |
| | | | 理解を深めるための調査・研究の実施 | 総務課 | 研 究 | A | ○ | ○ | △ | △ | ○ | ○ | ○ | 継 続 | | |
| | | | | 見守り型食事サービスの充実 | 地域福祉課 | 充 実 | B | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 継 続 | | |
| | | | | 福祉ニーズの把握 | 地域福祉課 | アンケート | B | ○ | △ | △ | △ | △ | △ | ○ | 継 続 | H28アンケート |
| | | | | 訪問理髪サービスの充実 | 地域福祉課 | 充 実 | B | △ | △ | ○ | ○ | △ | △ | ○ | 継 続 | |
| | | | | ねたきり老人等への紙おむつの支給 (家族介護支援事業含む) | 地域福祉課 | 充 実 | B | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 継 続 |

地域福祉活動計画進捗管理・事業評価総括一覧

| 基本目標 | 基本方針 | 施策の展開 | 事業名及び項目 | 担当課 | 3次計画 (H28) | 進捗状況 | H28評価 | H27評価 | H26評価 | H25評価 | 総合評価 | 4次計画 | 補足説明 | |
|---------------|------|-----------------------|--------------------------------|--------|---------------|------|-------|-------|-------|-------|------|------|--------|-----------------|
| 2. 良質なサービスの提供 | | ①福祉サービスの充実 | 低所得者援助事業 (応急援護、交通遺児、歳末配分事業) | 地域福祉課 | 充 実 | B | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 継 続 | | |
| | | | 夏季一時金支給事業 | 地域福祉課 | — | B | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 継 続 | 追加項目 |
| | | | 低所得家庭児童生徒援護事業 | 地域福祉課 | — | — | — | ○ | ○ | ○ | — | — | — | H27廃止事業 追加項目 |
| | | | 生活支援事業の充実 (生活・福祉金庫) | 地域福祉課 | 充 実 | B | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 継 続 | H27老障廃止 |
| | | | 住民参加型在宅サービスの研究、実施 | 地域福祉課 | 実 施 | B | ○ | △ | △ | ○ | △ | 充 実 | 前年改善項目 | |
| | | | 老人福祉事業の継続(長寿クラブ) | 地域福祉課 | 充 実 | B | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 継 続 | |
| | | | 米寿、長寿祝い事業 | 地域福祉課 | — | B | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 継 続 | 前年改善項目 追加項目 |
| | | | 結婚50周年祝賀会 | 地域福祉課 | — | — | — | ○ | ○ | ○ | — | — | — | H27廃止事業 追加項目 |
| | | 新しいサービス領域の調査・研究 | 地域福祉課 | 研 究 | B | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | 継 続 | | |
| | | ②公的な福祉サービスの提供 | 就労継続支援B型事業の充実 | 福祉作業所 | 充 実 | A | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 充 実 | |
| | | | 特定相談支援事業(H27～) | 福祉作業所 | — | A | ○ | ○ | — | — | ○ | ○ | 継 続 | H27新規事業 |
| | | | 福祉作業所の管理運営 | 福祉作業所 | — | A | ○ | ○ | — | — | ○ | ○ | 充 実 | 前年改善項目 追加項目 |
| | | | 居宅介護支援事業(介護予防含む)の充実 | 在宅センター | 充 実 | A | ◎ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | 継 続 | |
| | | | 訪問介護事業(介護予防含む)の充実 | 在宅センター | 充 実 | B | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | 継 続 | |
| | | | 障害者居宅介護・重度訪問介護の充実(同行援護含む) | 在宅センター | 充 実 | A | ◎ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | 継 続 | |
| | | ③サービスの適正な評価・苦情処理体制の充実 | 福祉サービスの適正な評価 | 総務課 | 評 価 | A | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | 継 続 | |
| | | | 苦情処理体制の充実 | 総務課 | 充 実 | B | ○ | ○ | △ | △ | ○ | ○ | 継 続 | |

地域福祉活動計画進捗管理・事業評価総括一覧

| 基本目標 | 基本方針 | 施策の展開 | 事業名及び項目 | 担当課 | 3次計画 (H28) | 進捗状況 | H28評価 | H27評価 | H26評価 | H25評価 | 総合評価 | 4次計画 | 補足説明 | | |
|--------------|------------|-------------------------|------------------------|----------------------|---------------|---------------|-------|-------|-------|-------|------|------|-----------|-------------------|--------------|
| | | | ふれあい・いきいきサロン活動の支援 | 地域福祉課 | 充 実 | A | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 充 実 | | | |
| | | | 地域福祉フォーラムの支援 | 地域福祉課 | 強 化 | C | △ | △ | △ | ○ | △ | 廃 止 | 地区社協事業へ統合 | | |
| | | 3. 問題を共有し解決する 仕組みの構築 | ①関係者のネットワークづくり | 日常生活圏のネットワーク支援 | 地域福祉課 | 支 援 | B | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | 継 続 | | |
| | | | | 市担当部署・関係機関との意見交換 | 地域福祉課 | 継 続 | B | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | 継 続 | | |
| | | | ②緊急時、災害時の支援体制の 確立 | 要援護者情報のデータ化 | 地域福祉課 | 充 実 | B | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 継 続 | |
| | | | | 災害ボランティアセンターの体制整備 | 地域福祉課 | 強 化 | A | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | 充 実 | |
| | | | | 災害ボランティア登録者制度(H25～) | 地域福祉課 | — | C | ○ | △ | ○ | ○ | △ | 充 実 | 前年改善項目 H25新規事業 | |
| | | | IV 計画推進のための 体制整備 | 1. 推進機能の強化及び 財源確保 | ①法人運営機能の強化 | 理事会・評議員会機能の強化 | 総務課 | 強 化 | A | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 継 続 |
| | | 発展強化計画の策定 | | | | 総務課 | 実 施 | — | — | — | — | ○ | — | — | 活動計画と一体的に策定へ |
| | | 経営の透明性の確保 | | | | 総務課 | 確 保 | B | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 継 続 |
| 個人情報の適正管理 | 総務課 | 継 続 | | | | A | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 継 続 | | |
| 事務局体制の強化 | 総務課 | 強 化 | | | | B | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 継 続 | | |
| 職員の資質向上 | 総務課 | 強 化 | | | | B | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 充 実 | | |
| ②安定した活動財源の確保 | 会員会費の増強 | 総務課 | | | 増 強 | B | △ | △ | △ | △ | △ | △ | 継 続 | 前年改善項目 | |
| | 寄附金の安定的な確保 | 総務課 | | | 確 保 | B | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | 充 実 | | |
| | 各種事業収益の確保 | 総務課 | | | 確 保 | B | ○ | △ | △ | △ | △ | △ | 充 実 | | |
| | 市の財政支援の継続 | 総務課 | | | 継 続 | A | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | 継 続 | | |
| | | | 自治体及び県社協助成金の活用 | 総務課 | 継 続 | A | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 継 続 | | | |

地域福祉活動計画進捗管理・事業評価総括一覧

| 基本目標 | 基本方針 | 施策の展開 | 事業名及び項目 | 担当課 | 3次計画 (H28) | 進捗状況 | H28評価 | H27評価 | H26評価 | H25評価 | 総合評価 | 4次計画 | 補足説明 |
|------|------------------|--------------|--------------------------------|-----|---------------|------|-------|-------|-------|-------|------|------|---------|
| | | | 共同募金会配分金の活用 (赤い羽根、歳末募金運動含む) | 総務課 | 継 続 | B | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | 充 実 | |
| | | | 民間助成金の活用 | 総務課 | 継 続 | A | ○ | △ | △ | △ | ○ | 継 続 | |
| | 2. 計画の点検・評価体制の整備 | ①計画の進捗管理及び評価 | 計画の進捗管理及び実施状況の評価 | 総務課 | 点 検 | A | ○ | ○ | ○ | — | ○ | 継 続 | H26より実施 |

| | | |
|--------|---|-----------------|
| 【進捗状況】 | A | 計画どおり実施済み |
| | B | 計画の50～100%未満の実施 |
| | C | 計画の1～50%未満の実施 |
| | D | 未実施 |

| | | |
|--------|---|------------------|
| 【総合評価】 | ◎ | 期待以上の成果が得られた |
| | ○ | 概ね期待どおりの成果が得られた |
| | △ | 期待したほど成果を得られなかった |
| | × | 成果を得られなかった |

| | | |
|---------|---|------------------|
| 【H28評価】 | ◎ | 期待以上の成果が得られた |
| | ○ | 概ね期待どおりの成果が得られた |
| | △ | 期待したほど成果を得られなかった |
| | × | 成果を得られなかった |

| | | |
|--------|-----|---------------|
| 【4次計画】 | 継 続 | 現行どおり、事業を継続する |
| | 充 実 | 事業の充実、強化を図る |
| | 改 善 | 事業の見直し、改善を図る |
| | 縮 小 | 事業規模を縮小する |
| | 廃 止 | 事業を廃止する |

平成28年度 地域福祉活動計画 進捗管理・事業評価シート

| NO. | 分類 | 事業名及び項目 | 担当課 | 3次計画 (H28) | 進捗状況 | 事業成果(実績含む) | 決算額 (単位:円) | H28評価 | 評価理由 | 総合評価 | 4次計画 | 今後の方針 |
|-----|-------|------------------|-------|---------------|------|--|---------------|-------|---|------|------|---|
| 1 | I-1-① | 心配ごと相談・無料法律相談の充実 | 地域福祉課 | 充実 | B | ①日常生活の困りごとや悩みごとを相談する場として、毎週1回、心配ごと相談を実施した。 心配ごと相談 111件 ②解決困難な事例については、他機関への紹介、無料法律相談(月1回)を実施した。 無料法律相談 48件 | 784,640 | ○ | ①相談件数の約5割を解決し、残りは無料法律相談や他機関へ繋げ、問題解決を支援した。 ②相談員の改選に伴い、新任研修を実施した。 ③耐震工事の終了に伴い、市民センターで再開したので、前年よりも相談件数が増加した。 | ○ | 充実 | 市民生活の身近な相談所として、引き続き、心配ごと相談事業を実施するとともに、相談機能を強化するため、相談員研修会を実施するほか、関係機関や他機関との連携強化を図っていく。 |
| 2 | I-1-① | ボランティア相談の充実 | 地域福祉課 | 充実 | A | ①コーディネーターを2名配置し、ボランティア活動に関する相談を受けた。(登録・斡旋・紹介など) 相談件数 136件 ②個人、団体を問わずボランティアに関する相談に応じ、団体の立ち上げや運営などを支援した。 | | ○ | ①既存の登録団体だけでなく、個人ボランティアや他の社会資源を活用し、相談への対応を行った。 ②団体の斡旋や紹介だけでなく、新たな団体の立ち上げ支援や、その後の活動について支援した。 | ○ | 継続 | ボランティア活動の裾野を広げるため、引き続き、コーディネーターの資質向上に努めるとともに、相談機能を強化するため、NPO・市民活動団体・関係機関との連携強化、PR活動(HP・SNS)の強化を図っていく。 |
| 3 | I-1-① | 子育てに対する相談機能の強化 | 施設課 | 強化 | A | ①親子の教室終了後など、気軽に相談できる環境を作り、子育てに関する相談、様々な情報提供を行った。 ②児童厚生員会議で、子育て支援に関する情報の共有化を図った。 | | ○ | 親子の教室を通じ、児童厚生員と親子の絆を深め、気軽に相談できる環境を作り、子育てへの不安解消に、努めることが出来た。 | ○ | 継続 | 子育て支援の一環として、引き続き、子育てに関する相談に応じるとともに、相談機能を強化するため、関係機関との連携強化、児童厚生員の資質向上を図っていく。 |
| 4 | I-1-① | 総合相談機能の確立 | 地域福祉課 | 確立 | B | ①要援護者からの相談を受けるとともに、関係機関と連携し支援を行った。 ②生活困窮者自立支援法の施行に伴い、各種研修に参加し、研究を行った。 | | ○ | 要援護者からの相談に応じ、迅速に問題解決に繋がるよう、関係機関、専門職との連携強化を図った。 | ○ | 継続 | 総合的な相談機能を確立するため、引き続き、関係機関や専門職と連携を強化するとともに、生活困窮者の自立支援に対応できるよう、職員の資質向上を図っていく。 |
| 5 | I-2-① | 広報紙「社福もばら」の充実 | 総務課 | 充実 | A | ①社協活動や地域福祉活動の理解を深めるため、広報紙「社福もばら」を年4回(5.7.10.2月)発行した。35,200部(5・10月)、35,000部(7・2月) ②広告協賛企業を募り、広報費用の一部を確保した。 | 1,595,564 | ○ | ①広報編集委員会において、市民の方に興味を持ってもらえるよう、読みやすい紙面づくりに取り組んだ。 ②内容がマンネリ化しないように、掲載内容を精査した。 ③広告スペースを確保し、広告協賛金を募集した。 | ○ | 充実 | 社協活動や地域福祉活動への理解を深めるため、引き続き、広報紙において地域の福祉情報を市民に提供するとともに、広報活動の財源を確保するため、広告協賛企業を募っていく。 |
| 6 | I-2-① | ホームページの充実(SNS含む) | 総務課 | 充実 | B | ①ホームページを活用し、市民の方に、最新かつ的確な情報を発信した。 ②情報の発信力を強化するため、SNS(ツイッター、フェイスブック)を使い情報を発信した。 | 142,560 | ○ | ①ホームページのインフォメーションやフォトギャラリーなどを活用し、情報を発信した。 ②更新頻度が低い部署もあるので、HP・SNSの重要性について、共通認識を図っていく。 | ○ | 充実 | 情報を取得する手段として、HPやSNSは重要なツールとなっているため、引き続き、誰もが利用しやすく、効果的に活用できるよう、情報発信力の強化、内容の充実を図っていく。 |
| 7 | I-2-① | PR活動の強化【前年改善項目】 | 総務課 | 強化 | B | ①社会福祉大会、もばちやるなどのイベント会場、小中学校や生涯大学などにおいて、社協のPR活動を行った。(社協パンフ配布) ②啓発資材として、新たに個人会員向けのチラシを作成した。 | 214,142 | △ | ①啓発資材を活用し、社協のPR活動を行ったが、知名度アップには至っていない。(アンケート結果) ②こども向けのイベント、小中学校の福祉教育において、若年層へのPR活動を行った。 | △ | 改善 | 社協活動や地域福祉活動への理解を深めるため、引き続き、あらゆる機会を通じて、社協活動などのPR強化を図るとともに、新たなアプローチ方法を模索していく。 |

平成28年度 地域福祉活動計画 進捗管理・事業評価シート

| NO. | 分類 | 事業名及び項目 | 担当課 | 3次計画 (H28) | 進捗状況 | 事業成果(実績含む) | 決算額 (単位:円) | H28評価 | 評価理由 | 総合評価 | 4次計画 | 今後の方針 |
|-----|--------|---------------------------|-------|---------------|------|--|---------------|-------|---|------|------|---|
| 8 | I-2-① | 声の広報活動 | 地域福祉課 | 継続 | A | 音訳ボランティアみずすまし会の協力により、市広報(24回/年)、小説(リクエスト)などを音訳し、DVDデータとして、視覚障がい者の方に配布した。 声の広報利用者 16名 | 66,885 | ◎ | ①助成金の活用や音訳ソフト講習により、ハード面が充実し、また、それを扱う人材の育成を行った。 ②慢性的にボランティア会員が不足しているため、協力者の確保が急務となっている。 | ○ | 継続 | 視覚障がい者の生活を支援するため、引き続き、みずすまし会と連携し、声の広報活動を行うとともに、今後は社協広報や娯楽性の高い雑誌の音訳、利用者やボランティアの確保について検討していく。 |
| 9 | II-1-① | 社会福祉大会の開催 【前年改善項目】 | 総務課 | 充実 | A | 社会福祉の進展に功績のあった個人、団体の方を顕彰し、記念講演を行った。 【福祉功労者】26名と2団体 【記念講演】 楽しく食べて健康に (キューピー株式会社) | 131,397 | ○ | ①市民センターのリニューアルにともない、会場を大ホールに変更したが、参加人数と会場の規模が調度良かった。 ②企業の社会貢献活動を活用し、記念講演を実施したので、経費節減を図ることができた。(無料) | ○ | 改善 | 社会福祉に功績のあった方の顕彰、地域福祉への理解を深めるため、引き続き、社会福祉大会を実施していくが、顕彰の対象者や記念講演の内容などについては、今後も検討していく。 |
| 10 | II-1-① | 福祉子どもまつりの開催 【前年改善項目】 | 地域福祉課 | 充実 | D | 市民センターの耐震工事にともない、H28年度は福祉子どもまつりの実施を中止した。 | | × | 耐震工事にともない、H28年度の開催を中止した。 | ○ | 継続 | 児童の健全育成、社協活動や民間福祉活動への理解を深めるため、引き続き、市内の福祉団体や企業と連携し、福祉子どもまつりを行うとともに、自主財源の確保、啓発活動の強化、内容の充実を図っていく。 |
| 11 | II-1-① | 福祉教育・福祉学習への支援 【前年改善項目】 | 地域福祉課 | 充実 | A | ①ボランティア団体と連携し、小中学校に講師を派遣し、福祉教育を支援した。 派遣回数 年6回 414名 ②助成金を交付し、小中高等学校の福祉学習を、財政面から支援した。 福祉教育推進校 18校 ③商業施設のイベントに参加し、福祉教育を実施した。 体験者数 224名 | 435,948 | ○ | ①福祉教育の実態調査を行い、授業に組み込みやすいプログラムを企画したので、派遣回数が増加した。 ②福祉教育推進校の活動を財政的に支援した。 ③イベントを通じて、子供たちに福祉教育を実施した。 | ○ | 充実 | 次世代を担う子供たちに「思いやり」や「助け合いの精神」を育むため、引き続き、福祉教育を推進するとともに、学校の教育方針に沿った学習プログラムの企画、未実施校への働きかけやPR活動の強化を図っていく。 |
| 12 | II-1-① | 福祉野球教室 | 地域福祉課 | — | B | 現役プロ野球選手を招き、障がい者、少年野球を対象とした福祉野球教室を開催した。 【参加者及び協賛企業】 福祉施設51名、少年野球151名、ボランティア9名、千葉ロッテマリーンズ5名、協賛企業・店舗45社 | 603,715 | ○ | ①スポーツを通じて、子供たちに夢や希望を持つ大切さ、障がい者への理解を深めた。 ②趣旨に賛同した企業から協賛金を募ることができた。 ③福祉野球教室のPR強化、交通の便を考慮し、会場を市営球場に変更した。 | ○ | 継続 | 児童の健全育成、障害者福祉への理解を深めるため、引き続き、福祉野球教室を行うとともに、現役プロ野球選手が参加するイベントであるため、今後は社協活動をPRする場としても、積極的に活用していく。 |
| 13 | II-1-① | 福祉・介護人材の育成 | 総務課 | 育成 | B | 市内福祉施設や行政と連携し、介護施設で就職を希望する方を対象に、介護施設見学会を開催した。(県補助事業) 介護施設見学会(年2回4名) | 55,432 | △ | ①福祉人材の確保定着を図るため、介護施設見学会を開催し、介護職への理解を深めた。 ②参加人数が減っているため、今後については高齢者支援課と検討していく。 | △ | 縮小 | 平成28年度から介護従事者向けの補助事業に変更されたため、今後は必要に応じて補助金を活用し、実施するものとする。 |

平成28年度 地域福祉活動計画 進捗管理・事業評価シート

| NO. | 分類 | 事業名及び項目 | 担当課 | 3次計画 (H28) | 進捗状況 | 事業成果(実績含む) | 決算額 (単位:円) | H28評価 | 評価理由 | 総合評価 | 4次計画 | 今後の方針 |
|-----|-------|--------------------------------------|-------|---------------|------|--|---------------|-------|---|------|------|---|
| 14 | Ⅱ-1-① | 理解を深めるための調査・研究の実施 | 総務課 | 研究 | A | ①福祉ニーズや地域の課題を把握するため、一般市民、サービス利用者を対象に、アンケート調査を実施した。 ②先進事業の研究、他社協と意見交換を図るため、役職員の視察研修を実施した。 【視察内容】ファミリーサポート事業(千葉市ファミリーサポートセンター、八街市社協) | 64,514 | ○ | ①アンケート調査により、市民が社協活動やボランティア活動についてどの程度理解し、又、どんな活動に関しを持っているか、把握することができた。 ②地域の支え合いや助け合いを、子育て支援において具現化するため、ファミリーサポート事業について、調査・研究を行った。 | ○ | 継続 | 社協活動やボランティア活動への理解を深めるため、先進地域の調査研究を行うとともに、市民の福祉ニーズや要望を把握するため、引き続き、アンケート調査などを行っていく。 |
| 15 | Ⅱ-2-① | 見守り型食事サービスの充実 | 地域福祉課 | 充実 | B | 70歳以上のひとり暮らし高齢者や障がい者などを対象に、月3回(7,8月除く)、ボランティアの手作り弁当を持って訪問し、安否確認を行った。 1食 100円負担 利用者数 154人 延食数 4,189食 | 1,715,367 | ○ | ①在宅生活の不安が軽減されると、サービス利用者、親族、関係機関から評価されている。 ②サービスの担い手が不足しているため、ボランティア体験教室を実施した。 ③栄養面を考慮したお弁当づくり、7月、8月の見守り強化が課題。 | ○ | 継続 | 地区ボランティアと連携し、引き続き、地域での見守り活動を推進するとともに、サービス向上や見守り体制を強化するため、勉強会などを行い、事業の見直しや充実を図っていく。 また、担い手不足を解消するため、PR活動など強化し、人員確保を図っていく。 |
| 16 | Ⅱ-2-① | 福祉ニーズの把握【H28アンケート】 | 地域福祉課 | アンケート | B | ①福祉ニーズや地域福祉の課題を把握するため、アンケート調査を実施した。 ②民協定例会、各種研修会などにおいて、福祉ニーズの把握を行なった。 | | ○ | ①次期計画の策定にともない、一般市民、サービス利用者を対象に、アンケート調査を実施した。 ②民協や地区社協の定例会、各種研修会などにおいて、地域の福祉課題などを把握した。 | △ | 継続 | 新たな福祉サービスの調査・研究を図るため、引き続き、福祉ニーズの把握を行なうとともに、必要に応じて、アンケートやアウトリーチなどの手法を活用し、課題の把握に努めていく。 |
| 17 | Ⅱ-2-① | 訪問理髪サービスの充実 | 地域福祉課 | 充実 | B | 在宅で6か月以上寝たきりの高齢者や障がい者(児)を対象に、本人及び介護者の負担を軽減するため、訪問による理髪サービスを提供した。(1回2,000円を上限に助成/年4回) 利用者16名、延べ36回 | 87,590 | △ | ①在宅で介護している世帯の経済的・精神的負担の軽減を図った。 ②デイサービスなどで理髪を提供する介護事業所が増加しているため、利用件数が伸び悩んでいる。 | △ | 継続 | 寝たきりの高齢者や障がい者(児)の在宅生活を支援するため、引き続き、訪問理髪サービスを実施するとともに、民生委員や関係機関と連携し、PR活動の強化を図っていく。 |
| 18 | Ⅱ-2-① | ねたきり老人等への紙おむつの支給(家族介護支援事業含む)【前年改善項目】 | 地域福祉課 | 充実 | B | ①在宅で6か月以上寝たきりの高齢者や障がい者(児)を介護する世帯の負担を軽減するため、年3回、紙おむつなどを支給した。 利用者 延べ532名 ②在宅で要介護4.5の高齢者を介護する世帯(非課税世帯)の負担を軽減するため、介護用品を支給した。(市委託事業) 利用者 28名 | 3,474,726 | ○ | ①在宅で介護している世帯の経済的・精神的負担の軽減を図った。 ②支給対象者の拡大、支給品目の見直し、財源確保が今後の課題。 ③家族介護支援事業については、市と交渉し、振込手数料などの委託費を確保した。 | ○ | 継続 | 寝たきりの高齢者や障がい者(児)を在宅で介護する世帯の負担を軽減するため、引き続き、紙おむつなどの介護用品を支給するとともに、事務の効率化、支給品目の見直し、財源確保を図っていく。 |
| 19 | Ⅱ-2-① | 低所得者援助事業(応急援護、交通遺児、歳末配分事業) | 地域福祉課 | 充実 | B | 共同募金の配分金や歳末たすけあい募金を活用し、要援護世帯や一人暮らし高齢者などに対し、見舞金や慰問品を配布した。 応急援護資金 81件 歳末配分事業 1,921件 | 4,120,388 | ○ | ①民生委員の調査、市からの情報提供により、見舞金や慰問品の配布を行い、多くの世帯を支援した。 ②対象世帯が増加する半面、毎年、募金額が減少しているため、財源確保が今後の課題。 | ○ | 継続 | 要援護世帯を支援するため、引き続き、民生委員や関係機関との連携を強化するとともに、共同募金の配分金を活用し、財源確保を図っていく。 |

平成28年度 地域福祉活動計画 進捗管理・事業評価シート

| NO. | 分類 | 事業名及び項目 | 担当課 | 3次計画 (H28) | 進捗状況 | 事業成果(実績含む) | 決算額 (単位:円) | H28評価 | 評価理由 | 総合評価 | 4次計画 | 今後の方針 |
|-----|-------|--------------------------------|-------|---------------|------|---|---------------|-------|--|------|------|--|
| 20 | Ⅱ-2-① | 夏季一時金支給事業 | 地域福祉課 | — | B | 民生委員の調査をもとに、要援護世帯に対し、夏季一時金を支給した。 基準額 1世帯2,000円 要援護世帯 363世帯 | 726,000 | ○ | ①民生委員活動において、担当地区の世帯把握、訪問活動に役立っている。 ②自主財源が減少しているため、財源確保が今後の課題。 | ○ | 継続 | 要援護世帯の把握、民生委員の見守り活動として、効果が見込まれるため、引き続き、事業を実施していくが、支給額については財政状況を踏まえ、随時見直しを図っていく。 |
| 21 | Ⅱ-2-① | 生活支援事業の充実 (生活・福祉金庫) | 地域福祉課 | 充実 | B | 専任相談員・自立生活支援員を配置し、相談援助や貸付制度などを活用し、低所得世帯の自立更生を支援した。 生活福祉資金28件 福祉金庫 70件 | 5,650,780 | ○ | ①滞納世帯の訪問指導、支援体制を強化し、個別に課題を整理するなど支援活動を行った。 ②相談内容が複雑化しているため、県社協や関係機関と連携し、慎重に支援を行った。 | ○ | 継続 | 生活困窮者の自立を支援するため、引き続き、貸付業務を行うとともに、償還困難者への指導、相談体制を充実するため、関係機関との連携強化を図っていく。 |
| 22 | Ⅱ-2-① | 住民参加型在宅サービスの研究、実施 【前年度改善項目】 | 地域福祉課 | 実施 | B | 住民相互による助け合い活動として、住民参加型の地区たすけあいサービスを地区社協で実施し、未実施地区に対しては、説明会などを実施した。 【利用件数】北部地区社協15件、中の島地区社協24件、中央地区社協3件 | 44,610 | ○ | ①北部地区社協については、町保方面へエリアを拡大した。 ②新たに、中央地区社協がサービスを開始した。 ③西部・豊田・東部地区社協が、検討会を実施した。 ④協力会員の入会金や利用料の見直しを協議した。 | △ | 充実 | 地域住民の「助け合い」、「支え合い」を具現化するため、引き続き、地区たすけあいサービスを推進するとともに、すべての地区社協において実施できるよう、支援体制の強化、実施方法の見直しを図っていく。 |
| 23 | Ⅱ-2-① | 老人福祉事業の継続 (長寿クラブ) | 地域福祉課 | 充実 | B | 市長寿クラブ連合会・長生地区老人クラブ連合会の事務局として、円滑に運営ができるよう支援した。 単位クラブ数 73クラブ 会員数2,230名 | 350,780 | ○ | ①市、県老人クラブ連合会、関係機関などと連絡調整を行い、円滑な運営を支援した。 ②若手委員会を設置し、HP更新、タブレット端末を使った研修を実施するなど、魅力ある活動と会員増強の支援を行った。 | ○ | 継続 | 高齢者福祉を増進するため、引き続き、長寿クラブ連合会の活動を支援するとともに、会員の加入促進、関係団体との連携を強化し、介護予防や支え合い活動の取り組みを行っていく。 |
| 24 | Ⅱ-2-① | 米寿、長寿祝い事業 【前年改善項目】 | 地域福祉課 | — | B | ①茂原写真会、フォトクラブ四季、デジカメの会の協力により、米寿者に記念写真を贈呈。 希望者 179名 ②白寿、100歳以上の方の自宅を訪問し、長寿祝品を贈呈。 白寿27名、100歳以上40名 | 564,421 | ○ | ①ボランティアの負担軽減のため、米寿者宅での撮影を見直し、市内3ヶ所で撮影を実施。 ②長寿祝い事業は、市と重複するため、事業評価検討委員会の答申を踏まえ、平成28年度を持って事業を廃止した。 | ○ | 継続 | 高齢者福祉の一環として、米寿祝い事業を継続するとともに、引き続き、ボランティアの負担軽減や経費節減について、今後も検討していく。 (長寿祝い事業廃止) |
| 25 | Ⅱ-2-① | 新しいサービス領域の調査・研究 | 地域福祉課 | 研究 | B | ①地区たすけあいサービスの先進地視察研修を行った。 【視察先】佐倉市社協(志津地区、ユーカリが丘地区) ②法人後見、ファミリーサポート事業などについて、調査研究を行った。 | 116,460 | ○ | ①地区社協事業推進委員会において、地区たすけあいサービスの調査研究を行った。 ②新規事業について、市や関係機関と協議した。 ③総合事業の調査研究が不十分だった。 | ○ | 継続 | 今後も、新たなサービス領域(市民後見人養成、総合事業、ファミリーサポート事業など)の調査・研究を行い、福祉サービスの充実を図っていく。 |
| 26 | Ⅱ-2-② | 就労継続支援B型事業の充実 | 福祉作業所 | 充実 | A | 受注事業の拡大、自主生産品の販路拡大やPR活動を強化したので、収入増加につながった。 受注事業 5,259,987円 販売事業 1,609,072円 | 6,869,059 | ○ | ①職員会議において、受注事業、自主生産品の拡大、販路の見直しを随時行った。 ②職員全員が共通意識のもと、事業を推進し、受注作業及び販売事業とともに、H27年度の実績を上回ることができた。 | ○ | 充実 | 障がい者の自立と社会参加を支援するため、引き続き、意見交換を行い、生産性の向上、事業の効率化を進めるとともに、新規受注や販売品の種類などについて検討し、利用者の工賃向上を図っていく。 |

平成28年度 地域福祉活動計画 進捗管理・事業評価シート

| NO. | 分類 | 事業名及び項目 | 担当課 | 3次計画 (H28) | 進捗状況 | 事業成果(実績含む) | 決算額 (単位:円) | H28評価 | 評価理由 | 総合評価 | 4次計画 | 今後の方針 |
|-----|-------|-------------------------|--------|---------------|------|---|---------------|-------|---|------|------|---|
| 27 | Ⅱ-2-② | 特定相談支援事業(H27～) | 福祉作業所 | — | A | 障害福祉サービスの利用に必要なサービス等利用計画を作成した。 サービス等利用計画 29名 (福祉作業所24名、その他5名) | 2,754,419 | ○ | 相談支援専門員を配置し、利用者が適切な障害福祉サービスを利用できるよう支援した。 | ○ | 継続 | 適切な障害福祉サービスを利用できるよう、引き続き、利用者の生活状況に合わせた、サービス等利用計画を作成するとともに、経営の安定化を図るため、可能な限り、新規利用契約を確保していく。 |
| 28 | Ⅱ-2-② | 福祉作業所の管理運営【前年改善項目】 | 福祉作業所 | — | A | ①経営の安定化を図るため、休みがちな利用者の利用促進と新規利用者の受入を積極的に行った。 ②多様化するニーズに対応するため、各種研修などへ参加し、職員の資質向上を図った。 | 36,455,296 | ○ | ①利用者の自宅訪問など行い、利用促進につなげた。 ②新規の利用希望者については、課題があっても積極的に受入を行った。 ③収支バランスは一部改善されたが、長期的かつ安定的な施設運営を行うため、さらなる経営努力が必要な状況である、 | ○ | 充実 | 利用者が安心してサービスを利用できるよう、引き続き、経営改善を行い経営の安定化を図るとともに、良質なサービスを提供するため、職員の資質の向上を図っていく。 また、経営の安定化を図るため、今後の施設運営について市と協議を行っていく。 |
| 29 | Ⅱ-2-② | 居宅介護支援事業(介護予防含む)の充実 | 在宅センター | 充実 | A | 利用者の在宅生活や介護者の負担を軽減するため、ケアプランを作成し、適切な介護サービスが利用できるよう支援した。 居宅介護支援 818件 介護予防支援 108件 | 9,204,645 | ◎ | ①利用者を確保するとともに、サービスの質を維持した。 ②個人目標を設定し、毎月研修会に参加した。 ③新規契約、認定調査を積極的に行った。 ④介護サービス事業者協議会の研修回数を増やした。 ⑤主任ケアマネの確保が課題 | ○ | 継続 | 要介護認定者が、適切な介護サービスを利用できるよう、引き続き、居宅介護支援を行うとともに、良質なサービス提供、経営の安定化を図るため、職員資質の向上、個人目標の設定、経営会議を行っていく。 また、地域包括ケアシステムの構築に向け、各種研修会に参加していく。 |
| 30 | Ⅱ-2-② | 訪問介護事業(介護予防含む)の充実 | 在宅センター | 充実 | B | 要介護認定者の在宅生活や介護者の負担を軽減するため、ホームヘルパーの派遣を行い、在宅生活を支援した。 訪問介護 355件 介護予防 153件 保険外サービス 45件 | 23,620,013 | ○ | ①利用者を確保するとともに、サービスの質を維持した。 ②訪問介護員に計画的な研修を実施した。 ③保険外サービスを提供し、訪問介護と組み合わせ、切れ目のないサービスを提供した。 ④業務の効率化を図り、サービス提供時間を増やした。 ⑤ホームヘルパーの確保が課題。 | ○ | 継続 | 要介護認定者の在宅生活や、介護者の負担を軽減するため、引き続き、訪問介護を行うとともに、経営の安定化、良質なサービスを提供するため、目標件数の設定、経営会議、質の高い人材確保に取り組んで行く。 また、第7期介護保険計画や法改正に向け、事業所の体制整備を図っていく。 |
| 31 | Ⅱ-2-② | 障害者居宅介護・重度訪問介護の充実(同行含む) | 在宅センター | 充実 | A | 障がい者の在宅生活や介護者の負担を軽減するため、ホームヘルパーの派遣を行い、在宅生活を支援した。 居宅介護 87件 同行援護 76件 | 2,685,927 | ◎ | 業務の効率化、同行援護に従事する職員やホームヘルパーを増員したので、支援回数、サービス提供時間が増え、収入が増加した。 | ○ | 継続 | 障がい者の在宅生活や、介護者の負担を軽減するため、引き続き、事業を行うとともに、良質なサービスを提供するため、質の高い人材確保、育成に取り組んで行く。 また、第7期介護保険計画や法改正に向け、事業所の体制整備を図っていく。 |

平成28年度 地域福祉活動計画 進捗管理・事業評価シート

| NO. | 分類 | 事業名及び項目 | 担当課 | 3次計画 (H28) | 進捗状況 | 事業成果(実績含む) | 決算額 (単位:円) | H28評価 | 評価理由 | 総合評価 | 4次計画 | 今後の方針 |
|-----|-------|---------------------|-------|---------------|------|---|---------------|-------|--|------|------|--|
| 32 | Ⅱ-2-③ | 福祉サービスの適正な評価 | 総務課 | 評価 | A | 職員で組織する「内部評価検討委員会」、社協の理事・評議員で構成する「事業評価検討委員会」において、福祉サービスの評価、検討を行った。 | | ○ | ①平成27年度に提供した各事業が、適切かつ効果的に実施できたか、評価を行った。 ②現状を認識し、各事業の見直を図ったが、新たな取り組みについて検討が不十分だった。 | ○ | 継続 | 良質な福祉サービスの提供、効果的な事業を展開するため、引き続き、事業の適正な評価を行うとともに、必要に応じて、提供する福祉サービスの見直しや改善を図っていく。 |
| 33 | Ⅱ-2-③ | 苦情処理体制の充実 | 総務課 | 充実 | B | ①苦情受付担当者、苦情解決責任者、苦情統括責任者を配置し、利用者からの意見や要望に対応した。 ②利用者に配慮するため、苦情解決第三者委員を選任し、公平性や中立性を図った。 ③苦情解決第三者委員への報告会を実施した。 | | ○ | ①利用者からの要望などを苦情解決責任者、苦情統括責任者に報告し、迅速に対応することができた。 ②組織として情報の共有化、再発防止に向けた、取り組みが不十分だった。(内部研修など) | ○ | 継続 | 利用者保護の観点から、苦情解決への取り組みが、ますます重要となるため、引き続き、苦情処理体制の充実、情報の共有化、再発防止に向けた取り組みを行っていく。 |
| 34 | Ⅱ-3-① | 日常生活自立支援事業の強化 | 地域福祉課 | 強化 | A | 日常生活を送る上で、不安を感じている高齢者や障がい者を対象に、日常的な金銭管理や福祉サービスの利用援助を行った。 相談・訪問調査件数 184件 利用者 26名 | 2,136,237 | ○ | ①利用者の状況やニーズに応じた支援を行った。 ②潜在的ニーズに対し、専門員の配置、委託費、補助金が不足している状況。 ③生活保護世帯の利用増加、財源確保が、今後の課題。 ④生活支援員の確保が難しく、各地域での確保が課題。 | ○ | 継続 | 高齢者や障がい者の日常生活を支援するため、引き続き、関係機関との連携を強化するとともに、安定した財源を確保するため、市補助金や県委託費などの財源確保を図っていく。また、サービスが必要な利用者を、円滑に支援できるよう生活支援員の確保を行っていく。 |
| 35 | Ⅱ-3-① | 法人後見受任事業の実施(H28～) | 地域福祉課 | — | A | 10月から判断能力が不十分な高齢者や障がい者を対象に、身上監護や財産管理などを行う後見業務を開始した。 2月に受任調整会議を開催し、1名の受任について審査した。 利用者0名、相談件数31件 *市長申立審判中1名 | 1,000,000 | ◎ | ①日常生活自立支援事業の利用者で、判断能力が低下してからも、継続して社協で支援できるよう、法人後見受任事業を開始した。 ②受任件数が増加した場合、専門員及び法人後見支援員の確保が、今後の課題。 | ◎ | 継続 | 判断能力が低下した高齢者や障がい者を支援するため、引き続き、法人後見の受任を行うとともに、運営基盤を強化するため、関係機関との連携、自主財源の確保を図っていく。 また、将来を見据え、市民後見人の養成も検討していく。 |
| 36 | Ⅱ-4-① | 市民活動の拠点確保 | 総務課 | 継続 | B | 茂原市福祉センター(総合市民センター、二宮・豊田・五郷・豊岡・東郷福祉センター)の管理運営を行うとともに、小域福祉圏における地域福祉活動の拠点を確保した。 【第4期指定管理者(H27～H32年まで5年間)】 *総合市民センター耐震補強工事期間(H27.11～H28.9月) 旧図書館に仮設事務所を設置 | 116,131,077 | ○ | ①安全に配慮した施設運営やサービスの向上を図るため、避難訓練、担当者会議を行った。 ②地域の活動拠点を活用し、子育て支援、生きがいづくりを推進するとともに、地域住民が主体となって行う、地区社協活動などを支援した。 ③耐震工事期間、市内公共施設と連携し、総合市民センター利用者の活動場所を確保した。 | ○ | 継続 | 市民活動の活性化や地域福祉活動の拠点を確保するため、引き続き、茂原市福祉センターの管理を行うとともに、今後も指定管理者として市に指名されるよう、安全面に配慮した施設運営を行っていく。 また、地域の拠点施設として、学童クラブの運営、地区社協を初めとする市民活動を積極的に支援していく。 |
| 37 | Ⅱ-4-① | 地域福祉活動の充実(地域福祉センター) | 施設課 | 充実 | A | ①地域住民の文化・教養の向上を図った。 ②地域の拠点施設として、地区社協やボランティアの活動を支援した。 ③地区社協、地域住民、センター利用団体などと連携し、様々な地域福祉活動を行った。 | | ○ | ①各事業を通じて、地域住民の文化・教養の向上を図った。 ②拠点施設として、地区社協やボランティアの活動を支援した。 ②地区社協、センター利用者、地域住民と連携し、地域の活力を高める活動を行った。 | ○ | 充実 | 地域住民の文化・教養の向上を図るため、引き続き、事業を行うとともに、小域福祉圏における地域福祉活動を活性化するため、関係機関との連携強化、職員の資質向上に努めていく。 |

平成28年度 地域福祉活動計画 進捗管理・事業評価シート

| NO. | 分類 | 事業名及び項目 | 担当課 | 3次計画 (H28) | 進捗状況 | 事業成果(実績含む) | 決算額 (単位:円) | H28評価 | 評価理由 | 総合評価 | 4次計画 | 今後の方針 |
|-----|-------|-----------------------------|-------|---------------|------|--|---------------|-------|---|------|------|---|
| 38 | Ⅱ-4-① | 健康と生きがいづくりの支援 (老人福祉センター) | 施設課 | 支 援 | B | ①郊外研修、主催教室などにより、高齢者の知識向上や健康増進を図ることが出来た。 ②高齢者同士の親睦を深める場を提供することが出来た。 | | ○ | ①各事業を通して、地域の高齢者の健康増進、教養の向上を図った。 ②いこいの場を提供し、高齢者同士の親睦を図った。 ③市民センターの耐震工事期間は、主催事業を休止した。 | ○ | 継 続 | 高齢者の健康増進、生きがいづくりを支援するため、引き続き、事業を行うとともに、センター利用者や各団体と連携し、地域の高齢者が気軽に集えるセンター運営を目指していく。 |
| 39 | Ⅱ-4-① | 子育て支援事業の充実(児童センター) | 施設課 | 充 実 | A | ①親子が気軽に集い、繋がることの出来る場を提供し、子育て支援や児童の健全育成を図った。 ②親子教室、夏休みこども教室などにおいて、子供たちの文化・教養の向上を図った。 | | ○ | ①地域の拠点施設として、子育て支援を行い、子育てへの不安解消、児童の健全育成を図った。 ②市民センターの耐震工事期間、福祉センターを活用し事業を継続した。 | ○ | 充 実 | 児童福祉の増進を図るため、引き続き、事業を行うとともに、子育て支援を充実するため、関係機関との連携強化、職員の資質向上に努めていく。 |
| 40 | Ⅱ-4-① | 学童クラブの充実 | 地域福祉課 | 充 実 | A | ①地域の福祉センターを活用し、学童クラブの運営を行い、子育て支援を行った。 ②市民センターの耐震工事にとまじり、夏期学童を五郷幼稚園で行った。 【延利用者数】豊岡学童253名、二宮学童261名、東郷第1学童411名、東郷第2学童526名、夏期茂原学童48名 | 22,695,990 | ○ | ①指導員の資質や専門性を高めるため、指導員会議、発達障がいなどの勉強会を開催した。 ②各学童クラブで、特色を生かした行事を毎月企画した。 ③市や関係機関と連携し、ネグレクトや虐待防止に関する会議、要保護児童対策会議に参加した。 | ○ | 継 続 | 働く親の子育てを支援するため、引き続き、学童クラブを運営するとともに、児童や保護者が安心して利用できるよう、関係機関との連携強化、安全面の配慮などを行い、サービス向上を図っていく。 また、発達障がいなどの知識を有す指導員を確保し、児童に合わせた保育を目指していく。 |
| 41 | Ⅱ-4-① | 地域交流事業の充実 | 施設課 | 充 実 | A | 各福祉センターにおいて、地区社協やセンター利用団体などと連携し、地域の特色を生かした地域交流事業を行い、地域住民の交流、市民活動の活性化を図った。 (6センター×年3回) | 247,564 | ○ | 地区社協や地域住民などと連携し、地域の高齢者や児童などの世代間交流を行い、地域住民の交流、親睦を図った。 | ○ | 充 実 | 地域住民の交流、市民活動を活性化するため、引き続き、事業を継続するとともに、小域福祉圏における地域福祉活動を充実するため、地区社協や協力団体との連携強化を図っていく。 |
| 42 | Ⅲ-1-① | ボランティアセンター機能の強化 | 地域福祉課 | 強 化 | B | ボランティアセンターでは、ボランティアの相談、登録、斡旋に応じるとともに、ボランティアの養成などを行い、ボランティア活動の普及を図った。 【ボランティア登録数】 団体 60団体/1,004名 個人 71名 合計 1,075名 | 817,643 | ○ | ①夏の体験ボランティア(47プログラム)に505名が参加した。 ②ボランティア団体と連携し、福祉教育などの普及活動を行った。 ③会員増強を図るため、「秋のボラ連ウィーク」を開催した。 ④SNSやパンフレットを使用した普及活動が不十分だった。 | ○ | 充 実 | 介護や障がいなどあらゆる分野において、ボランティアが必要となるため、引き続き、幅広い世代がボランティア活動の担い手となるよう、ボランティアセンター機能を充実するとともに、人材の発掘や育成を目的としたプログラム作成、世代ごとに適した情報を発信していく。 |
| 43 | Ⅲ-1-① | ボランティア団体との連携強化 | 地域福祉課 | 強 化 | B | ①ボランティア連絡協議会と連携し、新たに「秋のボラ連ウィーク」を実施した。 ②ボランティア団体と連携し、福祉教育などの普及活動、傾聴ボランティアの養成講座を実施した。 ③災害ボランティア団体と連携し、災害ボランティアセンターの設置訓練を行った。 | 494,000 | ○ | ①ボランティア連協、登録団体と連携し、高齢者の見守りサービス、福祉教育、ボランティア養成講座、災害ボランティアセンター運営訓練などを実施した。 ②ボランティア連絡協議会と連携し、組織的な普及活動を行った。 | ○ | 継 続 | 組織的なボランティア活動を推進するため、引き続き、ボランティア団体との連携を強化するとともに、ボランティア活動の活性化、組織強化を図るため、ボランティア団体への支援を積極的に行っていく。 |

平成28年度 地域福祉活動計画 進捗管理・事業評価シート

| NO. | 分類 | 事業名及び項目 | 担当課 | 3次計画 (H28) | 進捗状況 | 事業成果(実績含む) | 決算額 (単位:円) | H28評価 | 評価理由 | 総合評価 | 4次計画 | 今後の方針 |
|-----|-------|--------------------|-------|---------------|------|---|---------------|-------|---|------|------|---|
| 44 | Ⅲ-1-① | ボランティアの養成 | 地域福祉課 | 養成 | B | ①傾聴ボランティアの養成講座を実施した。 ②災害ボランティアセンターの運営訓練を実施した。 ③生活困窮世帯の中学生を対象とする学習支援ボランティアの養成を行った。 ④ボランティア活動のきっかけとして、夏の体験ボランティアなどを実施した。 | | △ | ①ボランティア団体と連携し、ボランティアの養成講座、活動のきっかけづくりを行った。 ②新たな分野の養成を行い、ボランティア活動の裾野を広げる取り組みを行った。 ③たすけあいサービス協力会員の養成が不十分だった。 | ○ | 充実 | ボランティア活動の活性化を図るため、引き続き、ボランティアの養成を行うとともに、幅広い世代が、ボランティア活動の担い手となるよう、ニーズ把握、普及活動の強化を図っていく。 |
| 45 | Ⅲ-1-① | ボランティア活動メニューの開発・整備 | 地域福祉課 | 整備 | B | ①学習支援ボランティアの活動を支援し、養成を行った。 ②障がい者スポーツの団体を支援し、ボランティア活動を整備した。 ③ボランティア連絡協議会と連携し、秋のボラ連ウィークを実施した。 | | △ | ①学習支援ボランティアや障がい者スポーツボランティアの支援、養成などを行った。 ②新たな活動メニューとして、秋のボラ連ウィークを実施したが思うような結果が得られなかった。 | ○ | 充実 | 個人や幅広い世代がボランティア活動に参加できるよう、引き続き、活動メニューの開発を行うとともに、ニーズ把握、ボランティア活動の整備を図っていく。 |
| 46 | Ⅲ-1-① | フォローアップ研修の充実 | 地域福祉課 | 充実 | B | ①ボランティア連協の会員を対象に、管理栄養士による研修会を実施した。 ②養成講座にて立ち上げた精神保健福祉ボランティアに、フォローアップ研修を実施した。 ③災害ボランティア関係団体、地区社協を対象に、災害ボランティアセンターの運営訓練を実施した。 | | ○ | 養成したボランティアやボランティア連協の会員などを対象に、フォローアップ研修会を企画したり、他機関主催の研修内容を周知し、参加を促した。 | ○ | 充実 | 新たに養成したボランティアや団体の活動を支援するため、引き続き、フォローアップ研修を行うとともに、既存のボランティアや団体に対しては、他団体・機関による研修情報などを積極的に発信し、活動をサポートしていく。 |
| 47 | Ⅲ-1-② | 当事者団体・福祉関係団体の活動支援 | 総務課 | 強化 | A | 市補助金や共同募金配分金を活用し、当事者団体及び福祉関係団体の活動を、財政面から支援し、連携強化を図った。(地区社協除く) | 7,067,000 | ○ | ①福祉関係団体の活動を財政面から支援するとともに、連携強化に努めた。 ②共同募金配分金や社協会費が、減少しているため、助成金の一部を見直した。 | ○ | 継続 | 当事者団体・福祉関係団体の活動を支援するため、引き続き、市補助金や共同募金配分金を活用するとともに、社協活動や地域福祉の推進機能を強化するため、関係団体との連携強化を図っていく。 |
| 48 | Ⅲ-2-① | 地区社協の運営支援 | 地域福祉課 | 充実 | A | ①地区社協の運営を支援するため、共同募金配分金を活用し、財政的支援を行った。(20万円×13地区) ②事務局及び福祉センターにおいて、地区社協の活動を支援し、地域での見守り活動、世代間交流事業などを行った。 ③地区たすけあいサービスについて視察研修を実施した。 【視察先】佐倉市社協(志津地区、ユーカリが丘地区) ④災害ボランティアセンターの運営訓練に参加した。 | 2,600,000 | ○ | ①職員の地区担当制により、きめ細かな対応ができた。 ②役割分担、事務の効率化を図るため、部会制の導入を支援した。 ③地区社協活動を支援するため、地区社協事業推進委員会(年2回)、視察研修を行った。 ④地区たすけあいサービスの実施地区を拡大した。 ⑤災害ボランティアセンターの運営訓練に参加し、災害に対する意識を高めることができた。 | ○ | 充実 | 小域福祉圏における地域福祉活動を推進するため、引き続き、地区社協活動の運営を支援するとともに、住民同士の支え合い・助け合い活動を具現化するため、地区たすけあいサービス、災害に対する取り組みを充実していく。 また、地域福祉活動の担い手を確保するため、普及活動の強化を図っていく。 |

平成28年度 地域福祉活動計画 進捗管理・事業評価シート

| NO. | 分類 | 事業名及び項目 | 担当課 | 3次計画 (H28) | 進捗状況 | 事業成果(実績含む) | 決算額 (単位:円) | H28評価 | 評価理由 | 総合評価 | 4次計画 | 今後の方針 |
|-----|-------|------------------|-------|---------------|------|---|---------------|-------|--|------|------|--|
| 49 | Ⅲ-2-① | 地区社協活動の周知 | 地域福祉課 | 強化 | B | ①社協広報やホームページを活用し、地区社協活動の周知を図った。 ②地区ごとにチラシや広報を発行し、啓発活動を行った。 ③福祉センターを拠点とする地区社協は、福祉センターと連携し、啓発活動を行った。 ④独居世帯を対象にサロンのチラシを配布し、サロンへの参加を呼びかけた。 | | △ | ①サロン活動などのチラシ、広報を地区社協単位で発行することにより、啓発に対する意識が高まっている。 ②地区社協活動に対する住民理解が、不十分だった。 ③地区社協役員が中心となって、サロン未参加者にチラシを配布し、参加を呼びかけた。 | ○ | 充実 | 広報、ホームページ、チラシなどにおいて、引き続き、地区社協活動やサロン活動を周知するとともに、幅広い世代が地域福祉の担い手となるよう、普及活動の強化を図っていく。 |
| 50 | Ⅲ-2-① | 地域福祉活動を実践する人材の育成 | 地域福祉課 | 育成 | B | ①ささえる・つながる福祉講座を行い、傾聴スキルについて学び、ボランティア人材の育成を図った。 年1回 参加者32名 ②生涯大学校において、社協活動や地域福祉活動の講演(年2回)を行い、地域福祉活動の担い手を育成した。 | | ○ | ①傾聴スキルについて研修を行い、ボランティアの養成を図った。 ②生涯大学校において、社協活動、ボランティア活動などの講義を行い、新たな地域福祉活動の担い手を育成した。 | ○ | 継続 | 地域福祉活動の担い手やリーダーを養成するため、引き続き、各種研修会において人材の育成を図るとともに、幅広い世代が担い手となるよう、普及活動の強化、フォローアップ研修を充実していく。 |
| 51 | Ⅲ-2-① | ふれあいいきいきサロン活動の支援 | 地域福祉課 | 充実 | A | ①高齢者の生きがいがづくりや介護予防を推進するため、地区社協のサロン活動を支援した。(10万円×13地区) ②小中学校と連携し、福祉教育の一環として、サロン活動を推進することができた。 ③警察と連携し、オレオレ詐欺などの被害防止を図った。 | 1,300,000 | ○ | ①地域性を生かした、サロン活動を展開し、地域住民の交流、高齢者の生きがいがづくり、福祉教育を推進した。 ②活動内容のマンネリ化、参加者の減少が課題。 ③サロン活動に参加できなくなってしまった高齢者を、地域でどう見守るか、今後の課題。 | ○ | 充実 | 高齢者福祉、児童福祉の増進を図るため、引き続き、ふれあいいきいきサロン活動を支援するとともに、活動の活性化、地域住民の理解を深めるため、普及活動の強化、常設サロンの設置などを目指していく。 |
| 52 | Ⅲ-2-① | 地域福祉フォーラムの支援 | 地域福祉課 | 強化 | C | 地域のさまざまな生活課題に対し、地域住民が主体となって課題解決に向けた取り組みができるよう、地域福祉フォーラムの支援を行った。 (13地区社協に設置) | | △ | ①地区社協が中心となり、県社協の補助金を活用し、地域福祉フォーラムを設置(H21~25年度)したが、現行では地区社協活動の一部となっている。 ②県社協の補助終了後、財源の確保ができなかった。 | △ | 廃止 | 事業を精査した結果、現行の地域福祉フォーラムは、地区社協活動の一部となっているため、平成29年度を持って事業を廃止とする。 (地区社協事業へ統合) |
| 53 | Ⅲ-3-① | 日常生活圏のネットワーク支援 | 地域福祉課 | 支援 | B | 個別に支援が必要とされる高齢者や障がい者の見守り体制を確保するため、福祉関係者や地域住民のネットワークづくりを支援した。 | | ○ | ①地区ボランティア、民生委員、福祉関係者が連携し、支援を必要とする高齢者や障がい者の見守り活動を行った。 ②見守りが必要な高齢者や障がい者、母子家庭などの把握が不十分だった。 | ○ | 継続 | 高齢者や障がい者、母子家庭などが、安心して生活できるよう、引き続き、ネットワークづくりを支援するとともに、ネットワーク機能を強化するため、情報の共有化を図っていく。 |
| 54 | Ⅲ-3-① | 市担当部署・関係機関との意見交換 | 地域福祉課 | 継続 | B | 市や関係機関の会議に参加し、法人後見・市民後見制度、ファミリーサポート事業、生活困窮者対策、総合事業、学童クラブ、介護保険の制度改正などについて、意見交換を行った。 | | ○ | ①市担当部署や関係機関と福祉施策に対する意見交換を行った。 ②多様化する福祉ニーズや福祉サービスを把握するためには、意見交換が不十分だった。 | ○ | 継続 | 福祉ニーズの把握、情報の共有化を図るため、引き続き、市や関係機関と意見交換を行うとともに、必要に応じた制度の見直し、新たな福祉サービスの提言を行っていく。 |

平成28年度 地域福祉活動計画 進捗管理・事業評価シート

| NO. | 分類 | 事業名及び項目 | 担当課 | 3次計画 (H28) | 進捗状況 | 事業成果(実績含む) | 決算額 (単位:円) | H28評価 | 評価理由 | 総合評価 | 4次計画 | 今後の方針 |
|-----|-------|---------------------------------|-------|---------------|------|---|---------------|-------|---|------|------|---|
| 55 | Ⅲ-3-② | 要援護者情報のデータ化 | 地域福祉課 | 充 実 | B | 民生委員と連携し、支援が必要な高齢者や障がい者の把握を行った。また、茂原市からの情報提供により、情報の共有化を図ることができた。 | | ○ | 市からの情報提供、民生委員の調査により、ある程度、要援護者の情報を集約しているが、緊急時や災害時におけるデータとしては、まだ不十分である。 | ○ | 継 続 | 関係団体や行政機関と連携し、引き続き、要援護者情報を把握するとともに、緊急時や災害時に迅速に対応できるよう、情報のデータ化を図っていく。 |
| 56 | Ⅲ-3-② | 災害ボランティアセンターの体制整備 | 地域福祉課 | 強 化 | A | ①市と災害ボランティアセンターの設置運営等に関する協定を締結した。 ②災害ボランティア、関係団体、地区社協と連携し、災害ボランティアセンターの運営訓練を行った。 ③九都県市合同防災訓練に参加し、災害ボランティアセンターの運営訓練を行った。 | | ○ | ①災害時、災害ボランティアセンターの運営が円滑に進むよう、支援内容や費用負担について、市と協定を締結した。 ②二宮福祉センターにおいて、サテライト型の運営訓練を行った。 ③県主催の防災訓練に初めて参加し、復興支援に関する取り組みを行った。 | ○ | 充 実 | 災害時や緊急時に、迅速に対応できるよう、引き続き、あらゆる場面を想定した立上げ訓練、災害ボランティアの普及活動を行うとともに、災害ボランティアセンターの運営が円滑に進むよう、運営マニュアルの見直しを図っていく。 |
| 57 | Ⅲ-3-② | 災害ボランティア登録者制度(H25～) 【前年改善項目】 | 地域福祉課 | — | C | ①市内や近隣市町村で起こった災害などに対し、迅速に対応できるよう、災害ボランティア活動に意欲のある個人又は団体の登録を募った。 個人登録 20名 団体登録 3団体(144名) ②規約の見直しを図った。 | | ○ | ①災害に関するシンポジウムや各種イベント会場にて、災害ボランティアの登録について、普及活動を行ったが、大幅な増加には結びつかなかった。 ②更新手続き、保険加入、免責事項などを規約に追加した。 | △ | 充 実 | 災害時や緊急時に、迅速に災害ボランティアの派遣が行えるよう、引き続き、災害ボランティアの登録増加を図るとともに、災害に強いまちづくりを推進するため、災害ボランティアの普及活動、訓練などを行っていく。 |
| 58 | Ⅳ-1-① | 理事会・評議員会機能の強化 | 総務課 | 強 化 | A | ①社会福祉法人制度改革にともない、理事、監事、評議員の権限を見直し、経営組織のガバナンス強化を図った。 ②評議員の選任及び解任において、中立性を担保するため、新たに評議員選任・解任委員会を設置した。 | 140,000 | ○ | ①監事及び評議員の権限を見直し、理事会に対する監査機能や牽制機能の強化を図った。 ②評議員選任・解任委員を選任し、新法に基づく評議員の選任を行った。 | ○ | 継 続 | 法人の運営機能、地域福祉の推進機能を強化するため、引き続き、理事及び評議員の選出方法(各委員会含む)、組織や事務局体制の見直しを図っていく。 |
| 59 | Ⅳ-1-① | 発展強化計画の策定 | 総務課 | 実 施 | — | 平成26年度事業評価検討委員会の答申に基づき、「発展強化計画」は地域福祉活動計画と連動するため、一体的に策定するものとする。 | | — | | — | — | 社協運営の中長期的な方針や基盤強化は、地域福祉活動計画と連動するため、今後は地域福祉活動計画と発展強化計画を一体的に策定し、進捗管理は事業評価検討委員会において実施する。 |
| 60 | Ⅳ-1-① | 経営の透明性の確保 | 総務課 | 確 保 | B | 広報紙やホームページを通じて、社協の組織体制、役員報酬の基準、予算及び決算の概要、資産状況を公表した。 | | ○ | ①定款、役員報酬の基準、現況報告、事業報告、計算書類及び財産目録を公表した。 ②社会福祉法人共通の財務諸表等電子開示システムへの対応を行った。(H29～本格稼働) | ○ | 継 続 | 経営の透明性や公益性を担保するため、引き続き、広報紙やホームページ、財務諸表等電子開示システム(ワムネット)などを活用し、社協の経営状況を公表していく。 |
| 61 | Ⅳ-1-① | 個人情報の適正管理 | 総務課 | 継 続 | A | 個人情報保護規程、特定個人情報取扱規程に基づき、個人情報やマイナンバーを適正に管理した。 | | ○ | ①法令等を遵守し、個人情報(特定個人情報を含む)の適正な管理に努めた。 ②データの一元管理を行い、個人情報(特定個人情報を含む)の使用制限を設けた。 | ○ | 継 続 | 公益法人として、個人情報の保護や特定個人情報に関する法令等を遵守し、引き続き、個人情報(特定個人情報を含む)の適正な管理を行っていく。 |

平成28年度 地域福祉活動計画 進捗管理・事業評価シート

| NO. | 分類 | 事業名及び項目 | 担当課 | 3次計画 (H28) | 進捗状況 | 事業成果(実績含む) | 決算額 (単位:円) | H28評価 | 評価理由 | 総合評価 | 4次計画 | 今後の方針 |
|-----|--------|------------------------|-----|---------------|------|--|---------------|-------|--|------|------|--|
| 62 | IV-1-① | 事務局体制の強化 | 総務課 | 強化 | B | ①県社協や市の委託事業を活用し、地域福祉部門の職員体制の充実を図った。 ②事務局体制の強化や人材育成を図るため、代理制を導入した。 | | ○ | ①後見センター専門員、自立生活支援員、学童担当(嘱託)の配置などにより、地域福祉課の人員確保を図った。 ②代理制により組織体制の強化、中堅職員の育成を図った。 | ○ | 継続 | 地域福祉の推進機能、事務局体制を強化するため、引き続き、県社協や市の委託事業などを活用し、事務局体制の充実を図っていく。 |
| 63 | IV-1-① | 職員の資質向上 | 総務課 | 強化 | B | ①職員の資質向上を図るため、担当職員研修、専門職員研修などに、積極的に参加した。 ②新任職員、各所属単位、全職員を対象とした社内研修を行った。 | 232,074 | △ | ①専門性を高めるため、県社協などで行う研修会への参加、社内研修として、新任研修、AED講習会などを行った。 ②中堅職員に対する研修制度が確立できなかった。 ③専門資格(社会福祉士など)の取得は、職員の自発性に委ねているのが実情。 | ○ | 充実 | 良質な福祉サービスを提供するために、引き続き、職員の資質向上に努めるとともに、職員の専門性や働く意欲を高めるため、資格取得や処遇改善など、今後検討していく。 |
| 64 | IV-1-② | 会員会費の増強 【前回改善項目】 | 総務課 | 増強 | B | 景気の低迷、自治会加入率の低下により、会費収入が年々減少しているため、新たに個人会員の募集や啓発資料を作成し、啓発活動の強化を図った。 社協会員 23,178件 (戸別22,704件、個人187件、賛助157件、法人130件) | 9,263,850 | △ | ①自治会加入率(58.8%)の低下、自治会一括納付により、会費収入が減少した。 ②会費の使いみちを市民に周知したり、会員増強への取り組みが、不十分だった。 ③個人会員が、郵便局で納付できるよう仕組みを構築した。 | △ | 継続 | 在宅福祉サービスや地域福祉の推進に、必要な財源を確保するため、引き続き、広報や啓発資料を活用し、社協活動への理解を深めるとともに、自治会未加入者や企業などに対し、加入促進を図っていく。(個人会員、賛助会員、法人会員) |
| 65 | IV-1-② | 寄附金の安定的な確保 【前回改善項目】 | 総務課 | 確保 | B | ①市民、企業などの寄附により、自主財源を確保した。 ②チャリティゴルフの収益を、寄附金として確保した。 ③指定寄附により、公用車や備品を整備することができた。 現金寄附 2,100,038円 物品寄附 180,220円 指定寄附 2,952,980円 | 5,233,238 | ○ | ①地域経済の低迷、既存の寄附団体の解散(企業含む)により、寄附金が減少している。 ②福祉こどもまつりの中止により、バザー収益の寄附金が減少した。 ③県共同募金会・県ゴルフ協会などの指定寄附により、寄附金が増加した。 | ○ | 充実 | 啓発活動を通じて、寄附に対する理解が深まるよう、引き続き、努力するとともに、自主財源を確保するため、チャリティー活動や募金箱を活用したPR活動を、今後は積極的に推進していく。 |
| 66 | IV-1-② | 各種事業収益の確保 | 総務課 | 確保 | B | ①介護サービスや障害福祉サービスの事業収益により、居宅介護支援事業、訪問介護事業、就労継続支援B型事業、特定相談支援事業を実施した。 ②事業収益を活用し、法人運営に必要な財源を確保した。 | 1,643,501 | ○ | ①各事業ともに、経営努力を行っているため、経営状況は安定してきている。 ②会費や寄附金の減少により、社協運営に必要な財源として、事業収益の一部を活用した。 | △ | 充実 | 公的な福祉サービスを安定的に提供するため、事業収益の確保に努めるとともに、引き続き、社協活動に必要な財源として、活用できるよう経営の改善を図っていく。(収益事業含む) |
| 67 | IV-1-② | 市の財政支援の継続 | 総務課 | 継続 | A | 市の財政的な支援により、平成28年度人件費及び事業費を確保した。 | 83,785,234 | ○ | ①昨年度に引き続き、専門員人件費の復元を市に要望したが、満額確保できなかった。(嘱託算定) ②事業費は要望額を確保した。 | ○ | 継続 | 市と協働による地域福祉の推進を目指すとともに、安定した社協運営ができるよう、引き続き、人件費や事業費について、市の財政支援を要望していく。 |
| 68 | IV-1-② | 自治体及び県社協助成金の活用 | 総務課 | 継続 | A | ①県、県社協、共同募金会の助成金を活用し、ボランティア活動や福祉教育の推進を図った。 ②県社協助成金を活用し、法人後見受任事業を開始した。 | 1,139,000 | ○ | ①助成金を活用し、ボランティア団体の活動支援、ボランティアの養成などを行った。 ②県社協の法人後見事業立上げ支援の助成制度を活用し、財源を確保した。 | ○ | 継続 | 地域福祉の推進、社協活動の財源確保を図るため、引き続き、助成金を積極的に活用していく。(新規事業を含む) |

平成28年度 地域福祉活動計画 進捗管理・事業評価シート

| NO. | 分類 | 事業名及び項目 | 担当課 | 3次計画 (H28) | 進捗状況 | 事業成果(実績含む) | 決算額 (単位:円) | H28評価 | 評価理由 | 総合評価 | 4次計画 | 今後の方針 |
|-----|--------|--------------------------------|-----|---------------|------|--|---------------|-------|---|------|------|--|
| 69 | IV-1-② | 共同募金会配分金の活用 (赤い羽根、歳末募金運動含む) | 総務課 | 継続 | B | 共同募金の配分金を活用し、民間福祉団体の財政支援、生活困窮世帯に対する見舞金・慰問品の支給、社協活動の啓発(広報・ホームページ)を行った。 | 9,448,594 | ○ | ①自治会加入率の低下や一括納入が増加しているため、募金額の7割を占める戸別募金が年々減少している。 ②歳末たすけあい募金については、若干減少したが、例年どおりの募金額を確保し、事業を実施した。 | ○ | 充実 | 民間福祉活動、地域福祉の推進に、必要な財源を確保するため、引き続き、共同募金運動の充実を図るとともに、共同募金の配分金を活用し、民間福祉団体の活動を財政面から支援していく。 (戸別募金の課題把握、新たな募金手法の検討含む) |
| 70 | IV-1-② | 民間助成金の活用 | 総務課 | 継続 | A | ①日本財団に車両購入の助成申請を行ったが、却下された。 ②清水基金から車両購入の交付決定を受けたが、ゴルフ協会の寄贈により申請を辞退した。 ③日本NPOセンターを活用し、セキュリティ対策を行った。 ④正規雇用への転換(2名)にともない、ハローワークに助成金を申請した。(130万円) | 1,324,924 | ○ | ①日本NPOセンターの寄贈プログラムを活用し、職場内のセキュリティ対策を図った。 ②キャリアアップ計画に基づき、嘱託職員を正職員に転換したため、助成金を受けることが出来た。 | ○ | 継続 | 地域福祉の推進、社協活動の財源確保を図るため、引き続き、民間助成金を積極的に活用していく。 |
| 71 | IV-2-① | 計画の進捗管理及び実施状況の評価 | 総務課 | 点検 | A | 職員で組織する「内部評価検討委員会」、社協の理事・評議員で構成する「事業評価検討委員会」において、本計画の進捗状況並びに平成27年度に実施した事業評価を行った。 | / | ○ | 本計画の進捗状況、平成27年度に実施した事業について、総点検を行い、次年度の方向性について、理事会に提言した。 | ○ | 継続 | 本計画の実効性、提供するサービスの質を高めるため、引き続き、本計画の進捗管理を行うとともに、効果的な事業展開を図るため、適正な事業評価を行っていく。 |

| | |
|---|-----------------|
| A | 計画どおり実施済み |
| B | 計画の50～100%未満の実施 |
| C | 計画の1～50%未満の実施 |
| D | 未実施 |

| | |
|---|------------------|
| ◎ | 期待以上の成果が得られた |
| ○ | 概ね期待どおりの成果が得られた |
| △ | 期待したほど成果を得られなかった |
| × | 成果を得られなかった |

* 総合評価については、H25～H28年までの成果をともに、評価すること。

| | |
|---|------------------|
| ◎ | 期待以上の成果が得られた |
| ○ | 概ね期待どおりの成果が得られた |
| △ | 期待したほど成果を得られなかった |
| × | 成果を得られなかった |

| | |
|----|---------------|
| 継続 | 現行どおり、事業を継続する |
| 充実 | 事業の充実、強化を図る |
| 改善 | 事業の見直し、改善を図る |
| 縮小 | 事業規模を縮小する |
| 廃止 | 事業を廃止する |